

1993年

新たなる混沌と 社会主義の再構築へ



《特別寄稿》
ポスト・ウォー・サイクル
1945-1992
サミール・アミン

軍幹部の辞任を要求するアフリカ民族会議・ANCのデモ(南アフリカ)

これまでとは全く異なる 新しい歴史段階

1

私はこの戦後半世紀を、三つの柱の上に築かれたシステムと規定する。資本主義西側のフォーディズム、東側のソビエト主義、第三世界の開発主義。この三つの柱がそれぞれの関係地域の社会的・政治的秩序を規定し、三者間の政治的・経済的・イデオロギー的関係にある種のバランスをもたらし、同時に競争と相互補完を繰り返しながら次第に崩れていき、ついに次々と崩壊して、一つの歴史的区画を終結する、その有り様を概述しようと思う。

この瞬間、世界は新たな混沌の時代に突入した。混沌の中で様々な再構築が模索され、これまでは質的に異なった原理に基づいて表現されるであろう。

戦後期を特徴づけてきた世界秩序は、支配的勢力が、世界システムのそれぞれの下位システムを舞台に展開してきた利害衝突の産物である。

一つ半世紀が終わった。一つの歴史的区画を形成する半世紀の最終点に我々は立っている。ほんの数年前まではこうも断定的に言えなかったかもしれないが、時の流れのおかげで、今この半世紀の基本的特徴を規定することが出来る。そして、やはり数年前からおぼろげに現れ始めている新しい歴史段階に入りつつある。これまでは全く異なった新しい歴史区

(二面につづく)

一九八九年、「東西の壁」崩壊という事態を受け、我々は混沌する社会主義の現状と未来についての問題提起として、特派員を派遣、ポール・スウィージー、サミール・アミン両氏にインタビューした。あれから三年、その間、湾岸戦争、ソ連の崩壊、旧ユーゴスラビアの民族対立、自衛隊の海外派兵等々、世界は揺れに揺れた。こうした状況の変化を踏まえつつ、現在を歴史的にどう認識するのか、そして社会主義の再生を目指す我々の課題は何か——南北問題を中心に、我々は再びサミール・アミンに手紙でいくつかの質問をした。それへの回答として送られてきた論文『ポスト・ウォー・サイクル 一九四五—一九九二』の全文を、新年の特集として紹介する。(訳・脇浜義明 小見出しは全て編集部)



一九九三年。もう二〇年が経ったのかと改めて思う。一九七三年五月三日。イスラエルの首都テルアビブ・ロッド空港での日本赤軍兵士による銃撃戦は、アラブ全土の民衆に日本人の存在を強烈に、忘れられない親近感と連帯意識を持って印象づけた。毎日顔を合わせ、語り合っている事細かにお互いの情報を交換し合うことが、相互理解や連帯の必要不可欠な方法であるという発想は、益々強く私達の頭を支配し続けている。この資本主義思想への拝跪こそ、北の左翼の危機の根源なのだ。二〇年が過ぎて闘争の形態や手段、方法は変化した。しかし、何十年経とうと変わることのない、相互に顔や名前すら知らない人間同士の交流・連帯の可能性の底に流れる質をリットル闘争は教えている。形は崩れ人もまた死ぬ。受け継ぐべき質はあるか。(N)

いま、関心のあること——▼民主主義イデオロギーと経済システムの矛盾が、日々検証できる場としての協同組合を作ること。どんな善人でも、お金のシステムの悪徳人になってしまおうから▼有機農業を、「点」の存在から「面」の存在へと拡大すること。資源は有限なのだし、すべてのリサイクルは、自然循環に倣うべきこと。エネルギーの浪費になるから▼「武器」と「たばこ」を売り買いして大もうけをたくらむ人を許さないこと。国家が独占資本に乗っ取られてから、命を預かっているはずの国家が命をないがしろにしているから▼人権や環境や農業のあり方に関心をもつ外国のひととつきあうこと。闘う方向を間違えたくないから▼家族とキチンとつきあうこと。いいかげんだと何も見えてこないから▼そして、稲を作ること。何はともあれ、おもしろいから。

2

戦後期五〇年間を画する 二期の区分

戦後期五〇年間を私は以下の三期に区分する。

1945~1955 3つの柱の地域体制の 確立

性、一九一九年の勝者と敗者の間の闘いはその後も続き、大恐慌の追太刀もあって、ますます悪化していったところに、第二次世界大戦の大規模破壊によって壊滅的とも言える打撃を受けた。

ところが、欧州と日本の社会基盤はかなり頑強で、あの一九一九年の革命的急進化を防いだのである。それどころか、欧州の場合は一九四七、四八年から（マーシャル・プラン）、日本の場合は一九五一年から（サンフランシスコ条約）、米のフォードイズムのモデルに沿った発展プログラムに加速度的に乗り出したのである。

社会主義から遠ざかったソ連

ソビエト主義は一九三〇年代に出来上がった。ロシア革命は生まれた時から二つの矛盾しあう要素を内包していた。先進資本主義諸国の水準に

1955~1975 バンドン会議期

「追いつく」ことを優先すべきか、それとも「何か別なものを創造する」(例えば無階級社会)目的を優先すべきか。前者の場合が意味することは資本主義構造の大規模な再生産であったが、一九三〇年以降その方向への選択がなされ、かくしてソ連の体制は益々初期の社会主義的目的から遠ざかっていった。

ソビエト主義は厳しい試験を経てナチズムとの闘いに勝利した。この勝利はソ連の国内外に大きな役割を果たした。戦争で甚大な破壊を被ったにもかかわらず、一九四五

東欧に自国に有利な形で防衛網形成を提案した時も、それを受け入れざるを得なかったのである。ポツダム会議の頃は核兵器を保有しており、軍事的優位性に確信が持てたので、ソ連に対して軍拡競争という消耗戦を挑むことができた。

戦後スターリンの死まで展開されたソビエト主義は、厳密に防衛的なものであった。しかしその後、第三世界に民族主義が高揚したのに乗じて（一九五五年のバンドン会議支持）、反撃に転じた。同時に、毛沢東主義やソビエト主義と第三世界の人民の反乱は、新しい

周辺部の独立、近代化、工業化

一九五七年以降、東側の二大勢力の間に分裂が生じることになる。

民族主義を軸に半世紀にわたってイデオロギー的・政治的に準備され、一九四五年を機に、それ以降急速に爆発した。そしてその後五〇年間に、政治的独立の達成を課題とする闘いが、アジアで、次いでアフリカで展開された。バンドン会議（一九五五年）や新「開発主義」のイデオロギーの中



1947年 インド自治権獲得

また同時に、アジア・アフリカの運動とラテン・アメリカの新しい「開発主義」の間に対話が誕生した。ラテン・アメリカは、アジア・アフリカのように政治的独立とか非ヨーロッパ的文化再建のための闘いという課題には直面していなかったが、同じように近代化と工業化という課題に取り組んでいた。

1975~1992 危機とシステムの 崩壊

戦後期の第三局面は、国内及び世界秩序が依って立っていた三柱が崩壊する時期である。

最初に危機に陥らしたのは資本主義西側で、無限の成長という神話に疑問符が打たれた（この点で一九六八年は決定的な転換期であった）。それを受けて、前世紀末に帝国主義に同調して以来眠り続けていた西側の左翼勢力も、復活の希望を

一極体制は表面的な擬制

この局面はまた、ソ連が第三世界の民族解放運動と同盟関係を結んだ、それまでの孤立から脱した世界の舞臺に乗り出した時期でもある。このため

ポスト・ウォー・サイクル
1945-1992
ポール・アミン



1942年 ドイツ軍スターリングラードに突入

化し、それに代わって

戦後期—旧システムから新システムへの移行の瞬間

歴史には終りがなく、戦後期は終わったが、他の歴史区画と同じように、先行歴史と後続歴史の間の「移行期」として見ることもできる。

第二次世界大戦直後世界システムとして存在していた現存資本主義は、その歴史的形質の遺産として、次の二つの特徴をもっていた。

新システムとは何か？

①歴史的形質たる民族ブルジョア国家が、他の民族ブルジョア国家との相互競争の中で、自国の民族資本主義経済（民族資本によって主として支配・管理される民族的生産システム）が機能する政治的・社会的枠組を作り上げた。これらの国家が世界システムの中心諸国を形成した。

②一九世紀に中心諸国が相次いで産業革命を行って以来、中心部対周辺部の分極化は、工業化中心部と非工業化周辺部の間の対立という形態を採った。

ところが、この二特徴は戦後期には次第に崩れていった。

①周辺部社会は、独立を獲得した後、不均等な形ではあるが工業化世界へ参入した。その結果、それまで工業の不在という共通性が作り上げていたある種の同質性が崩れて、「半工業化した」「第三世界」と、まだ産業革命を経験していない「第四世界」へと分化、両者の

格差が益々大きくなっていった。

②中心諸国間の資本相互侵入が一国の民族生産システムの飽和点を越えるまで高まり、各国が一つの世界的規模の生産システムの構成部分となる再編成が始まった。

③第三世界のうちで工業化しなかった地域の「第

新たな社会主義の明晰化への視点

4

上記の問題に答えるためには、資本主義を規定する諸法則の分析と、資本主義の拡大の理論が要請する諸課題に対し社会を構成する各要素が政治的・イデオロギー的にどう対応するのかが分析を絡ませて考えることが必要である。しかし、未来というものはいつも不定である。現存資本主義は柔軟で、社会的利害の衝突が引き起こす紛争に対する如何なる政治的解決に對しても、したたかに調子を合わせて進化することからである。



数百年にわたり提起してきたことを簡単に再提起するにとどめよう。

(1)第三世界の工業化は、現存世界資本主義に固有の分極化に終止符を打つものでなく、そのメカニズムと形態を他のレベルに移行させるだけである。中心部は相対的に金、テクノロジー、文化、軍事を独占し、利益を貪っている。だから、第三世界の工業化は西側のような社会進化をもたらしえない。西側では、早くからの大規模機械工業の発達と、欧州の人口爆発に對し両大陸が移民地として存在し、植民地征服によって安価な原材料入手といった有利な条件の中で、農業革命が継続的に成し得たこともあって、長時間かけて社会変革が成し得た。そういう準備があったからフォードイズムが生まれたのである。フォードイズムによって資本対労働の歴史的妥協が成立し、中心部産業予備軍の減少によっても一層促進された。

資本の相互浸食と民族国家の矛盾

軍が並行して存在し、革命的潜在性を秘めた厳しい社会対立が激化した。近代周辺部資本主義の特徴であるこういう状況は、労働者階級を中心として、拡大する資金調達費用を通して絞り取られる搾取に苦しむ農民、産業予備軍を形成する底辺の

上記の問題に答えるためには、資本主義を規定する諸法則の分析と、資本主義の拡大の理論が要請する諸課題に対し社会を構成する各要素が政治的・イデオロギー的にどう対応するのかが分析を絡ませて考えることが必要である。しかし、未来というものはいつも不定である。現存資本主義は柔軟で、社会的利害の衝突が引き起こす紛争に対する如何なる政治的解決に對しても、したたかに調子を合わせて進化することからである。



1991年「湾岸戦争」

戦後期の神話が崩れた今こそ社会主義の再検討を

歩的社會政策も伴っていない「スーパー・マ



②この段階で工業化からはじき出された第四世界の社会システムは、グロテスクとも言える外観を呈している。大部分は、最底辺の貧困層と如何なる農業革命からも疎外された農民大衆からなる産業予備軍である。この大衆階級を前にして、権力を行使する少数者の方も、その権力の正統性を裏付けるような何らの権威も歴史性も主張できない。こういう辺境化のため、生産点や権力場での社会闘争も弱

も、あるいは不均等の中で機能している現実の欧州共同体も、上記課題に對応できる答えを出すことはできないし、南や東側の各地域を分割して北（西側）の各ブロックに配分、従属させ、責任を各ブロック別に分極化するようにプロジェクトを出す力もない。

オルタナティブな社会主義へ

スティーブ・アミン、未来を語る

世界のマックス・ウェーバー論をリードしてきた、人が社会主義の再編成の方向を熱く語っている。

脳筋義明監訳渡辺政治経済研究所編新泉社発行 1854円（税別）

の戦後期の間、政治的・イデオロギー的な論争やそれへのオルタナティブとしての進歩的プロジェクトの表現は、前述の三つの支配的イデオロギ—西側の社会民主主義、東側のソビエト主義、南の民族解放思想—によって歪められてきた。少し前に、こういう左派思想を世界的規模で乗り越えようとする流れが、少しではあるが、出現した。

七〇年代中葉、欧州で予期しない不況のおかげで左翼復活の希望が生まれた。戦後の近代化成長路線と密接に関連する社会民主主義のドグマ、及びソビエト主義のドグマの両方から脱し、新たな社会主義的展望が再生する希望が生まれた。しかし、この希望は直ぐに失望に変わった。しかも社会民主主義が後退し、そ

【学習資料】

反システム運動—歴史とジレンマ

エマニュエル・ウォーラスティン 著

フランス革命から200年、民衆の資本主義反対運動にマルクス主義はどこまで応えられたのか、残された課題は何か？

日5版45ページ、500円（千175円）

発行 渡辺政治経済研究所

※人民新聞社でも取り扱い中／

二月五、六の両日、東京で第三回フォーラムが行われたが、私は六日の第三分科会「トヨタ・ス・日本の経営・会社主義」に出席した。私の関心は、欧米にまで進出してきている日本の生産方式の発生・発展・消滅という歴史性の把握にあり、この点での意見が聞ければと思っていた。この分科会での問題提起は、栗木安延さん「日本型フォード・イズムをめぐって」と、磯谷徳明さん「日本型経済システム」で、私の関心が狭いせい、正直に言って、これらの問題提起にはピンとこなかった。

私はこの分科会で次のような発言をした。「ここでの議論の前提となっている自動車産業の現状は、大分以前の話ではないか。人手不足の時代に、いつまでも奴隷工場では、若い人が集まらない。現在、ラインには本工、臨時、季節、派遣、パート、女性、外国人など、様々な労働条件

の人達が、肩をならべて働いている。これらの人達でラインを動かそうとすれば、会社は権限を下に降ろさなければならぬ。しかし、権限を下に降ろせば矛盾が広がり、ラインが動かない。このはさまでどうにかラインを動かしているのが、自動車産業の現状だ。看板方式では在庫がないことになっているのだから、もし高速道路などで事故がおこれば、ラインは止まるはずだが、止まったという話を聞いたことがない。その理由の一つは、この分科会のテーマである会社主義だ。労働者は生活領域がせま

松浦診療所の泥仕合 大阪・F

最近、田中機械関連の記事があまり載っていないが、特に松浦診療所では、事態はドンドン悪化している。まず経営側。何を勘違いしたのか、とにかく強気で弾圧一辺倒。お手盛りの格差賃金の導入に続き、ついに女性組合員の解雇を断行した。しかも、表裏の「闘争」に因

的に優れているが、これは日本の労働者が世界一の奴隷根性の持ち主だからではない。労働者を通して獲得した経験と勘に基づき技能を、労働者が資本家に出し惜しみせずに提供するから、いい物が作れる。技能は労働者の所有物だから、強制的に提供させることはでき

日本の生産方式の空洞化—新たな生産方式が生まれる可能性はない

渡辺雄三

ず、ギブ・アンド・テイクで自発的に提供されなくてはならない。日本の生産方式の意義は、労働者が資本家に技能を自発的に提供するシステムを作りだしたことにある。この方式は、日本社会の歴史的な産物であり、したがって、それを生み出し発展させた条件が消滅すれば、この方式も消滅する。日本の生産技術は世界

北朝鮮の記事はよかった 新潟・O

の経営側。どっちもどっちの泥仕合に職場は荒廃の一途というのが現実。そして、組合・港合同側。診療所の職員が参加しない一時金交渉で、三ヶ月で妥結したものの、「金は組合の方で払うから受け取れない」とアツサリ退席。千万単位の金などが保証すればナンボでも労働金が貸してくれるのでしょ、さすがに関係者も一瞬ボーン。

本がその段階に入ったのは第二次大戦後だった。それ以前の日本の重工業は軍工廠に限られており、民需用品は全て外国からの輸入でまかなわれていた。軽工業段階における労働者の主流は未婚の女性であり、重工業段階に入ってから初めて、男性の家族持ちが主流を占め

未婚の女性が主な搾取の対象だった時代に、資本家に対する不信は彼女達に限られていたが、男性の家族持ち労働者まで搾取の対象が広がった。その最大の理由は、日本と欧米との資本主義の発展段階の違いにある。欧米が重工業段階に入ったのは一九世紀末からだが、日

て聞いて「や、貴紙の記事に対する反論はすべておもしろかった。特に四面の北朝鮮の記事は非常に良かった。旧赤軍関係の人々は、この記事をどうのように見るのか、興味がある。塩見事務所などから反論や投書はないか」と。一九九一年四月、東京

燃えてる67才 とうとう支援!! 東京・K

本紙送って下さい 東京Kとある。その後何回か出ていて、一月五日号4Pはタブロイド版の大部分を使って、「どうする日本人・シベリア出兵とPKO」の長文……さらに関東から人物紹介やニュースとしてユーモアコント、川柳、狂歌他等々をボランティアで送っている。吾ながらガンバッテルな——そして今年は関東でもっと紙数も広告も増やしたい！燃えてる六七才、一九九三年の正月!! とうとう支援!!

出される条件は、今後、途上国から先進国に仲間入りする国が出てくれば、その可能性が考えられるが、先進国が閉鎖的なグループを作り、新規参入を阻止しているの

それゆえに、自動車資本家は、新たな労働者の攻勢を、資本が自動車の生産コストを下げることで内部で吸収できず、販売価格に転嫁するようになり、生産性の低下と販売価格の上昇との悪循環に悩まされることになる。したがって、労働者階級と資本家階級の関係は、日本といえども「嵐の時代」に入

日本の生産方式に代わる新たな生産方式が生み出される。これは日本の生産方式の空洞化、事実上の消滅を意味する。

協力したことがいかにありがたか

- *大阪W二千円*神奈川I二千円*新潟O五千円
- *大阪K二万円*東京M一万円*大阪T一万円*
- *兵庫N二万円*兵庫Y七千円*大阪J五万円*
- *大阪三万円*大阪日九千円*大阪一五万円*
- *大阪一五万円*大阪一五万円*

1月号「特集」私たちの選択—アジアと世界の中で ★850円

憲法第九条と民権原理 伊藤誠彦 憲法PKO法・国際貢献 山内敏弘 PKOの思想と対決する反戦運動のために 池田五郎 戦後処理から始めなければ 白井敬子 ポスト・パブル 迷走する日本資本主義 河宮信郎 アジアから見た企業国家 ニッポンの浅野健一 共通の未来へ向けて 人と人がつながりあう P.21 希望の連合へ一歩を踏みだしたい 井上礼子

フォーティズム・ファシズム・ニューディール 栗木安延 フォーティズムのオルタナティブは？ 伊藤正純 地球環境問題とレギュラシオン・アプローチ 若森孝一 国際ネットワーク インテリクチュアル民族のオルタナティブ ユーゴ内戦 岩田昌雄 「アナリス日本経済」カワウチはフクジウシ 石塚良次 「日本百姓群像」農産物価格は今の3倍に 大野和典 「ギネマ歩」エイリ アン3 土方美雄 「書評」『優越する人権』外国人労働者 ◆池田文平 星野智「現代国家と世界システム」◆国富達治 ほかに記事多数

Foruman 月刊フォーラム

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-4-5 文芸春秋社 Tel.03-3271-0943 Fax 03-3271-3657 発売所 社会評論社

ある老年 一八五四円

乾 孝著

八〇歳を迎えた心理学者の自伝五部作につづく「ある老年の記」完結篇。

〈好評既刊〉

意見書 「大地の脈」からあなたへ 加藤三郎著 二七八一円

70年代の反日武装闘争から、90年代の非日の思考へ。連続爆弾闘争実行犯による渾身の手記。高橋源一郎氏絶賛！

市民運動の宿題 ベトナム反戦から未来へ 吉川勇一著 二二六六円

市民運動を支える理想と力とは何か。「ベ平連」をふりかえりつつ、今後の市民運動を展望する。中山千夏氏推薦！

思想の科学社



日本人はゴルフという遊びをやめるべき

神奈川・芝 公彦

現在、人類が直面している緊急課題は環境の保護である。そのために、足元である国内でのゴルフ場を自然破壊を引き起こしている。ゴルフ場を廃止することだと思ひ、自分に出る

範囲で一杯回ってしまふ。ゴルフ場建設反対からゴルフ場廃止へと運動の変更はありましたが、すでに七年になります。日本でのゴルフという遊び(スポーツ)ではありませんが、ゴルフは環境を完全に破壊し、農業までも必要とします。

「無農薬ゴルフ場」という言葉も聞かれますが、農薬を撤がなくなると「砂漠化」です。汚いままかきを用いてまで、ゴルフ場が次から次へと造られるのでしょうか。答えはいた

る人があるからです。以上はゴルフ場は存在し、農業が撤がれ、次から次へと造られます。天下の悪法「リゾート法」によって、ゴルフ場建設は猛烈な勢いで日本全土を席巻しました。そこには善悪の判断はなく、カネになることが全てでした。当然ですが、マスコミは反対意見を全く無視し、逆にゴルフを美化し、煽りに煽りまくりました。

ゴルフという遊びを止めることが、日本人が国際人になる第一歩のようないきなりです。そのために「悪いことは悪い」と、これからは絶えず訴えていくつもりです。

また、内閣について、小野悦男さんは、一九九一年四月当時、つよい反対感情をもっていました。そこで、「内閣問題」を非暴力で考える会」のよびかけ人に加わってまいりました。ところが、革労協のおどかしに屈伏した某裁判支援者の反対で、この話はこわ

て、私は、良い勉強をしました。裁判闘争支援の世界も、料理政治、株式支援の世界も時代おくれになってしまいました。小野悦男さんの社会復帰は、多くの人の共闘事業です。私は、一九七四年に小野悦男さんの救援をまっさきに手がけた人間として、情報の公開を要求します。

「夫を拾った人」 野川 記枝 著 定価一八〇〇円

針槐(はりえんじゅ) 中野 武彦 著 定価一七四八円

新日本文学会 中野区東中野一丁目41-5 Tel: 03-3381-7576 Fax: 03-3381-8676

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

「名ばかり」 英国 皇太子夫妻 落選ブッシュ大統領 孤立 ロシア大統領 ロボット日本首相 (東京・タロー)

団塊の世代、あるいは全共闘世代の「同志」たちへ

政治不信と新たな勢力出現への期待

T君、イトマン事件から佐川事件へと、日本の政治の暗闘が次々に明らかになる中で昨年は暮れました。野党まで含めたどうしようもない政治への不信が人々の心の奥に渦巻き、新たな政治勢力の出現の期待を生み出つつあります。そして、「変化」を訴えた戦後世代のクリントンが米次期大統領に選出されたこともあり、日本でも、再び我々団塊の世代あるいは全共闘世代が注目を集めています。

それは、ある意味では時代の必然なのだと感じるでしょう。しかしT君、昨年を振り返る時、私は改めて、全共闘運動とその後の二十年は何だったのか、問い返して見るべきではないかと痛感せざるを得ません。自民党の「信頼回復を志す会」や社会党の「ニューウェーブの会」等の連中はともかく、「我々の時代」とばかりにうごめき始めた、様々な運動を担い左翼を自称してきた人々に至るまでの、度し難いエリート・指導者意識、自己顕示欲にウンザリさせられたからです。エコロジー運動に乗り移り

「方向を見失い地金が出た自己否定」 何故こんなふうにならなにか? T君、言葉で言ってしまう事は単純、つまり地金が出てきた、ということなのだと思います。我々の育った高度成長の時代は選別と競争、分断と管理

のイデオロギー攻撃の時代であり、全共闘運動のエネルギーは、その中に自らが取り込まれ固定されたことへの即時的反発、漠然とした不安や焦燥感に支えられていた。その意味では、当時のメインスローガンの一つ「自己否定」とは、強烈な自己肯定・自己実現への欲求の裏返しだったと思うのです。が、言うまでもなく、否定

「自己否定」とは、強烈な自己肯定・自己実現への欲求の裏返しだったと思うのです。が、言うまでもなく、否定

「自己否定」とは、強烈な自己肯定・自己実現への欲求の裏返しだったと思うのです。が、言うまでもなく、否定

「自己否定」とは、強烈な自己肯定・自己実現への欲求の裏返しだったと思うのです。が、言うまでもなく、否定

「自己否定」とは、強烈な自己肯定・自己実現への欲求の裏返しだったと思うのです。が、言うまでもなく、否定

「自己否定」とは、強烈な自己肯定・自己実現への欲求の裏返しだったと思うのです。が、言うまでもなく、否定

○ジョナ・カラ・コスタ著 伊田久美子訳 1880円

愛の労働

「マリアローザ・カラ・コスタとフランカ・カラ・コスタはイタリアの果敢なフェミニスト姉妹。姉は家事労働の、妹は愛という名の性の労働の秘密を赤裸々にあばきた。性と暴力の関係、結婚の中の強姦、先春とレズビアンズがどうして男に對する関心になるのか」が明解に解かれる。」——推薦 上野千鶴子

○マリアローザ・カラ・コスタ著 伊田久美子訳 2060円

家事労働に賃金を

「労働の拒否」という戦術に結合した家事労働賃金化闘争の提唱者、カラ・コスタの論議。家族・社会運動、福祉政策、移民問題などへのアプローチ。

○山田ナオミ、坂本式子ほか 1880円

島に生きる

漁業活動 三年目の報告

●インパクション74

メディアの中の戦争・メディアの外の戦争

湾岸戦争から一年

ダグラス・ラミス、板垣雄三、宮嶋信夫、市田良彦、天野恵一、嶋 鋼哲、米ペーパータイガーTV、台湾グリーン・チーム、マルコムX・グラスルーツ・ムーブメントほか

税込1200円

インパクト出版会

東京都文京区本郷2-30-14 (発売・イザラ書房)

☎03-3818-7576 FAX 03-3818-8676

新日本文学 92年秋号

戦争と性

小説「村はずれの女」比嘉辰夫

インタビュ 尹静慕・高銀

JRジプシー日記

国労の仲間達とともに

村山良三 著 定価一八〇〇円

夫を拾った人 野川 記枝 著 定価一八〇〇円

針槐(はりえんじゅ) 中野 武彦 著 定価一七四八円

新日本文学会 Tel: 03-3381-7576 Fax: 03-3381-8676

